

## 2. 地球温暖化問題への対応

(1) 再生可能エネルギーの活用 (2) 省エネ住宅の普及と身近な省エネの取組み (3) 交通・運輸部門での温暖化対策 (4) 環境技術や知恵の積極的な利用と活用	(リーディング事業) 2-1 地場産再生可能エネルギー活用推進事業 2-2 雨水利用プロジェクト 2-3 市民に便利で、環境にやさしい交通体系づくり
--	---

### 「特集」

#### ○メガソーラー飯田が運転を開始しました

飯田市は、平成 21 年 1 月に内閣府から環境モデル都市に指定され、温室効果ガス排出削減を目的に様々な取組を行っています。その一環として、住宅用太陽光発電設備をはじめとした自然エネルギー利用機器の普及を進めています。更により多くの市民に自然エネルギーの利用を意識してもらうため、中部電力株式会社との協同により飯田市川路城山でメガソーラー飯田の建設を進めてきました。2011 年 1 月 28 日に運転を開始した当施設は、最高出力 1000 キロワット（1 メガワット）、年間約 300 世帯分の電気を作り出し、400 t の CO<sub>2</sub> 削減が見込まれています。

施設の周辺には、遊歩道や駐車場の整備、基本資料の展示がされ、誰でも自由に見学できるようになっています。市外から観光に来られた方のためにビデオシアターによる案内もあります。

地域で作り出し、地域で利用できる自然エネルギーのシンボルとして、現在も多くの見学者が訪れています。



## 2地球温暖化問題への対応

### (1) 再生可能エネルギーの活用 (\*はリーディング事業)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
*雨水排水施設設置事業	平成20年度より庁舎敷地内に雨水浸透枡と雨水貯留槽を模擬設置(展示)し市民に有効性のPRをしています。 22年度は、雨水貯留施設65基、雨水浸透施設11基、計76基に対し補助を行いました。 まちづくり委員会、建築士会、建築士事務所協会、浄化槽設置管理組合、浄化槽事業者協会、指定工事店、FMラジオ、飯田ケーブルテレビ、広報いいでPRを実施しました。	地下水が増え、さらに水質が改善され川や池が浄化され清水や湧水が復活、増加し水辺環境が向上します。(地下水の涵養、水環境の保全)また、河川への急激な流出をおさえ、浸水災害を未然に防止する効果が期待できます。 (雨水流出抑制) (防災意識向上)	下水道課	1,728,000	02-01-02 (雨水排水施設設置補助金)
*企業人材確保住宅の管理	エコハウジングビレッジ内に、経済産業省の補助を受け、環境共生住宅のモデルとして地元企業の研究開発者の雇用を促進するための住宅を9棟建設し管理しています。 地元産材の利活用、太陽光発電の利用、ペレットボイラーの設置など、環境配慮型の施設を備えています。	地元産材の利活用を促進し、環境配慮型の施設整備が、二酸化炭素の削減につながりました。	工業課	なし	
太陽光発電の啓発	座光寺公民館に設置されている太陽光発電設備による、CO2排出削減結果の掲示をしています。	地域住民への啓発に役立っています。	座光寺公民館	なし	
消化ガス発電システム共同研究	平成21年4月よりヤンマーエネルギーシステム株式会社との共同研究により、松尾浄化管理センターにおいて未利用であった、余剰下水消化ガスを有効利用した発電の実証試験を平成22年7月まで行いました。7月末で実験機を買い取り、8月より引き続き発電を行いました。 ※汚泥処理の過程で、消化槽において汚泥中の有機物を発酵させて汚泥を減量しますが、このとき消化ガス(メタンガス)が発生します。	消化ガス発電システム1台における ・発電電力量:200,899kwh/年 ・発電時間:8,105時間/年 ・CO <sub>2</sub> 削減量:91.41t/年(全電力換算) ・杉の木植林換算:6,529本/年(全電力換算)	下水道課松尾浄化管理センター	4,620,000 (事業用備品購入、点検維持管理費)	下水道事業特別会計 2-02-02-010 (浄化管理センター管理費)
*バイオディーゼルの実用化に向けた実証実験事業	市内のNPO法人の協力を得て、保育園や小中学校の給食センターの廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料(BDF)を製造し、生ごみ収集車や公用車で利用しました。	廃棄物を適正に再利用することで、資源の循環利用と地球温暖化防止が図られます。	NPO法人くれよん 子育て支援課 学校教育課 地球温暖化対策課	7,600	04-01-05 (新エネルギー推進事業費)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
*メガワットソーラー発電施設運用	中部電力と共同して、平成23年1月に1メガワット出力のあるメガワットソーラー飯田を竣工しました。見学施設を併設し、広く見学者を受け入れております。	家庭用電源のグリーン化に資するとともに、自然エネルギー利用のアピールにもなります。	中部電力(株) 地球温暖化対策課	58,125,050	04-01-05 (新エネルギー推進事業費)
*住宅用太陽光エネルギーの利用促進	飯田地球温暖化対策地域協議会を通じて住宅太陽光発電システム1kWあたり7万円、上限20万円を補助しています。平成22年度は284件の申請があり、補助金等の制度利用の累計は1,336件になりました。 環境省のまほろば事業及びメガワットソーラー市民共同発電事業で地元エネルギー会社によって設置された公共施設をはじめとした「おひさま市民共同発電所」では、「全国初の発電量集中管理システム」が稼働しており、「グリーン電力証書」という環境価値を取り扱っています。	自然エネルギーの利活用が進むと、化石燃料の使用が減り、温室効果ガス排出量が削減されて、地球温暖化防止になります。	地球温暖化対策地域協議会 地球温暖化対策課	56,321,000	04-01-05 (新エネルギー推進事業費)
太陽熱エネルギーの利用促進	飯田地球温暖化対策地域協議会を通じて住宅用太陽熱温水器1件あたり設置費用の5分の1、上限3万円を補助しています。22年度は56件の申請があり、平成19年度から累計226件の利用がありました。	太陽光発電とあわせ、豊富な日照時間を生かした地域の太陽エネルギー利用により、温室効果ガス排出量が削減され、地球温暖化防止につながります。	地球温暖化対策地域協議会 地球温暖化対策課	1,740,000	04-01-05 (新エネルギー推進事業費)
*薪・ペレットストーブの普及啓発事業	市では、飯田市地球温暖化対策地域協議会を通じて、薪ストーブ設置者には設置費用の5分の1(上限5万円)、ペレットストーブ・ペレットボイラー設置者には設置費用の5分の1(ストーブ上限15万円・ボイラー上限20万円)の奨励金を出しています。特にペレットストーブにおいては、地域の森林資源を循環利用する観点から、県の森のエネルギー推進事業補助金(10万円)も合わせて活用しました。	薪ストーブ設置17台 ペレットストーブ・ペレットボイラー設置6台	林務課 飯田地球温暖化対策地域協議会 地球温暖化対策課	923,000	04-01-05 (新エネルギー推進事業費)
*小水力市民共同発電可能性調査事業	平成21年度には環境省の委託を受けて、飯田市での小水力発電の可能性について調査を行いました。22年度はモデル河川を選定し、水量・地質・生物調査など具体的に検討し、地域住民と共有しました。	小水力発電の実現に向けて具体的になってきました。実現すれば、自然エネルギー利用の多様化につながります。	地球温暖化対策課	8,471,587	04-01-05 (環境モデル都市推進事業費)
*多様なエネルギー供給の啓発	りんご並木の太陽光発電と風力発電装置により、市民に再生可能エネルギーの利用の普及啓発を行っています。りんご並木のエコハウスと併せて、飯田の自然エネルギー普及のシンボルとなっています。	小型の風車設置以来、市内で同様の風力発電設備が見られるようになりました。また、エコハウスの利用者は22年度で一万を超え、啓発に効果を上げたと考えられます。	地球温暖化対策課 商業・市街地活性化課	なし	

(2) 省エネ住宅の普及と身近な省エネの取組み (\*はリーディング事業)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
21世紀環境共生型モデル住宅管理事業	<p>○21世紀環境共生型モデル住宅（「りんご並木のエコハウス」）を活用し、環境共生型住宅の建設や活用について学ぶ環境コミュニティカレッジを開催。</p> <p>1 開催期間：平成22年6月27日～同年11月7日、平成23年2月19日 2 参加者数：環境コミュニティカレッジ 53名、シンポジウム及び講演会 60名 3 長野県事業の元気づくり支援金を得て実施。</p> <p>○りんご並木のエコハウスを活用し、環境に配慮した住まい方を学ぶ「エコカフェ」を開催。</p> <p>1 開催期間：平成23年1月12日～3月23日 2 参加者数：128名</p>	<p>省エネ住宅の普及や環境に配慮した住まい方（エコライフ）について、りんご並木のエコハウスを活用することで、多様な主体が参画し、自らが学び広く市民が学ぶ機会を創出できました。（上記講座により延べ241名が参加）</p>	<p>商業・市街地活性化課、地球温暖化対策課、信州飯田エコハウス推進地域協議会、飯田市中心市街地活性化協会、いいだ応援ネットイデア</p>	7,243,000	7-1-6-13-21 (21世紀環境共生型モデル住宅管理事業)
ライトダウンの取組	<p>地球温暖化防止一斉行動の中でライトダウンの取組を次のように実施しました。</p> <p>1 実施期間 6/7～13、9/6～12、平成23年2/16～22（計21日間） 2 参加対象 飯田・下伊那地域の事業所・個人 3 実施内容 夜10時までに家庭の照明及びテレビの電源を切る 4 実施結果 ①参加事業所264事業所・参加人数39,728人（延べ）</p>	<p>ライトダウンの取り組みによって削減されたCO2の量約21トン</p>	<p>地域ぐるみ環境ISO研究会 地球温暖化対策課</p>	なし	
待機消費電力の削減	<p>地球温暖化防止一斉行動の中で待機電力削減の取組を次のように実施しました。</p> <p>1 実施期間 6/7～13、9/6～12、平成23年2/16～22（計21日間） 2 参加対象 飯田・下伊那地域の事業所・個人 3 実施内容 電化製品を長時間不使用の際にコンセントから抜く 4 実施結果 参加事業所264事業所・参加人数54,186人（延べ）</p>	<p>待機電力削減の取り組みによって削減されたCO2の量約3.5トン</p>	<p>地域ぐるみ環境ISO研究会 地球温暖化対策課</p>	なし	

(3) 交通・運輸部門での温暖化対策 (\*はリーディング事業)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
* 公共交通機関を利用した通勤の実施	<p>ノーマイカーデーの自動車に替わる通勤手段として、公共交通機関を利用した通勤に取り組みました。延べ乗車人数 バス2,104人 電車2,546人</p>	<p>事業所に対する公共交通利用の働きかけの契機になります。</p>	<p>人事課</p>	なし	



取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
*ノーマイカーデーの実施	市役所に通勤する者について、毎月第三水曜日の他、年間24回をノーマイカーデーとし、自家用車を使用しない通勤に取り組みました。 対象者数481人 勤務日数243日 実施台数延べ26,037台 実施率22.4パーセント(目標25パーセント) 6月、9月に県下一斉ノーマイカー通勤ウィークに参加し、延べ719人が実施しました。	○「環境にやさしい運転」を考えるきっかけとなり、事業所への同様の施策の普及が期待できます。 ○公共交通機関利用の促進により、CO2排出量が削減されます。	人事課	なし	
吾妻町ロータリーにおけるラウンドアバウト社会実験	平成22年11月から12月にかけて、吾妻町のロータリー交差点(ラウンドアバウト)において、「安全でエコなラウンドアバウトの実用展開に関する研究」のための社会実験を(公財)国際交通安全学会と協働して取り組みました。 社会実験を進めるにあたっては、地域住民との意見交換会や説明会を実施したり、利用者意識アンケートを行うことで、利用者等としての視点から貴重な意見をいただくことができました。	ラウンドアバウト型交差点は、信号制御による電力消費が不要であり、また赤信号によるアイドリングが発生しないという点から環境負荷の低減効果が期待できます。	地域計画課、 (公財)国際交通安全学会	1,350,000	08-04-01 (土地利用基本方針運用事業費)
*ノーマイカー通勤の推進	地球温暖化防止一斉行動の中でノーマイカー通勤の取組を次のように実施しました。 1 実施期間 6/7~13、9/6~12、平成23年2/16~22(計21日間) 2 参加対象 飯田・下伊那地域の事業所・個人 3 実施内容 徒歩、自転車、電車・バス等の公共交通機関、軽自動車・バイク等への乗り換え、相乗り等によるノーマイカー通勤 4 実施結果 参加事業所264事業所・参加人数23,931人(延べ)	ノーマイカー通勤の取り組みによって削減されたCO2の量約52.9トン	地域ぐるみ環境ISO研究会 地球温暖化対策課	なし	
自転車市民共同利用事業	低炭素な移動手段の促進施策として、平成21年度に130台のレンタルサイクルを導入しております。市民だけでなく、観光来訪者でも利用できるよう、宿泊施設にも設置しています。 設置場所は以下の通りです。 中心市街地の公共施設：10カ所 中学校：1カ所 事業所：17カ所 宿泊施設：15カ所	市民に対して、自転車の有効な利用を提案し、移動手段の多様化を図ります。それによって、より低炭素な暮らし方を意識してもらうとともに、実践に結びつけてもらいます。	地球温暖化対策課	1,571,845	04-01-05 環境モデル都市推進事業費

(4) 環境技術や知恵の積極的な利用と活用

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
議会定例会におけるクールビズの推進	<p>飯田市議会定例会において、議長より冒頭に地球温暖化防止のため、議場の温度設定を28℃とし、上着を脱ぐなどクールビズを推進する旨発言し、実践しました。この模様は、ケーブルテレビで市民等へ中継され、地球温暖化防止の取組みが情報発信されました。</p> <p>第2回定例会 5/31～6/23(4回) 第3回定例会 8/31～9/30(4回)</p>	<p>地球温暖化防止への取組みやクールビズなど実践が印象づけられ、意識啓発となり他への取組みに活かされます。</p>	飯田市議会	なし	